

泊発電所2号機の手動停止について

泊発電所2号機(加圧水型軽水炉、定格電気出力57万9千kW)は、定格熱出力で運転中のところ、格納容器サンプの水位に上昇傾向が認められたため、調査を行った結果、原子炉格納容器内の再生熱交換器室において1次冷却水の漏えいを確認しました。(9月7日13時50分)

そのため、原子炉から1次冷却水を抽出する系統を、再生熱交換器を経由しない別の系統に切り替えることにより漏えいを止めるとともに、超音波を使用した非破壊検査(UT)等の現場調査及び補修方法の検討を行ってまいりました。

非破壊検査(PT,UT)を行った結果、漏えい箇所は1箇所であることが特定されました。

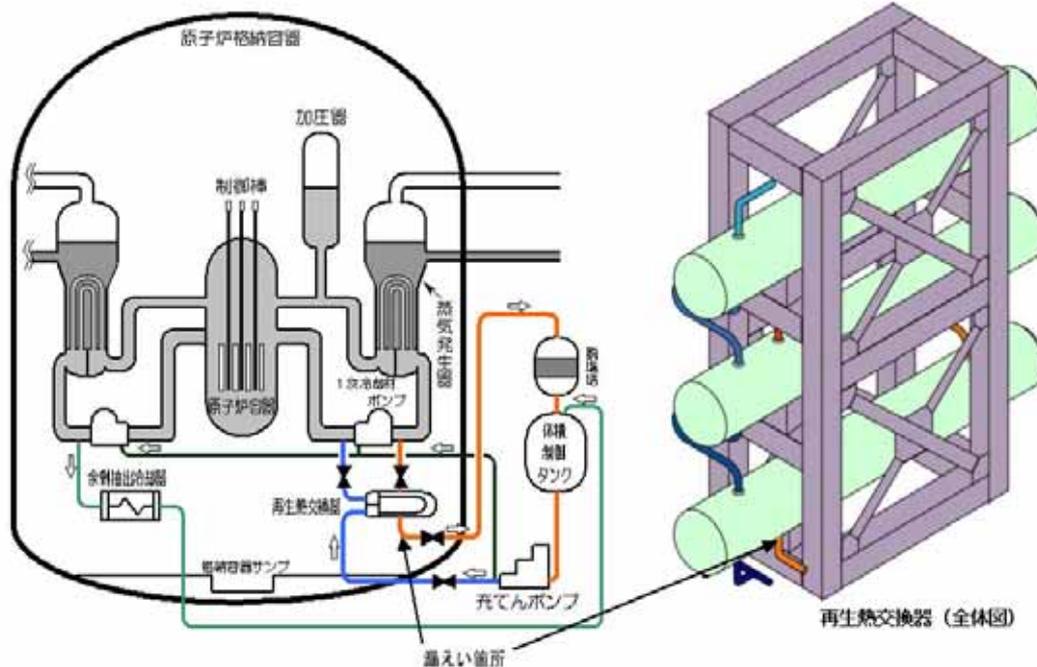
一方、類似の箇所(6箇所)について同様な検査を行なった結果、異常は認められませんでした。

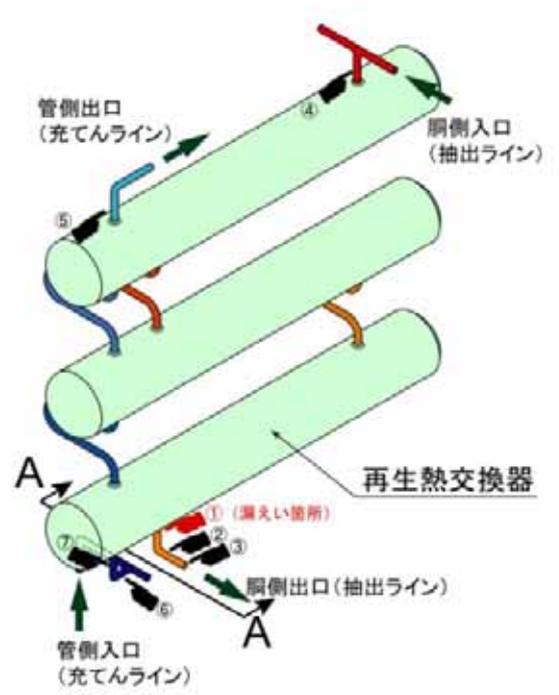
以上、お知らせ済み

当社におきましては、非破壊検査と並行して、補修方法についての検討を行ってまいりましたが、原子炉の運転を停止し、漏えい部の配管を新しいものに取り替えることが適切と判断しましたのでお知らせ致します。

10日午後6時より泊2号機の出力を徐々に低下させ、11日午前0時頃に発電を停止する予定です。

なお、本件については、原子炉等規制法に基づき経済産業省に、また、安全協定に基づき北海道及び地元四ヶ町村に連絡済みです。





A - A 矢視

